

令和6年度 地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業 大分県の事例（2021年度～）

＜現状及び課題＞

- 高校中退者数…378人、中途退学率…1.3%（全国平均1.5%）【令和5年度】
- 高等学校における不登校生徒数…701人（人口1,000人あたり24.8人、全国（23.5人）と比較してやや高い。）
- 公共交通機関の利便性が低いため、支援を必要とする者が支援会場まで足を運びづらいという課題がある。

＜取組内容及び実施方法＞

【実施体制の整備】

- 県内の「地域若者サポートステーション」、「ジョブカフェ」、「ハローワーク」と教育委員会、知事部局等が連携して実施体制を整備するとともに、高等学校内への学習相談窓口の設置や、NPOを活用した学習相談・学習支援を実施。

【学習相談・学習支援の実施】

- 大分市内4カ所を会場として、学習支援・学習相談を実施（年173回）。会場の選定にあたっては駅周辺とするなど利便性を考慮。
- 個別指導を行うことで、相談者の希望や状況に応じたきめ細かい対応を実施。また、希望に応じてWEB会議システムやSNS等による学習支援の検討も実施。
- 1会場につき原則週2回（19時～21時）実施。電話等による学習相談については専用回線を設置し、実施日時以外での対応もできるように整備。
- 「おおいた学びのステップアップ協議会」を年2回開催し、関係機関との情報の共有・提供を行うことで事業推進策を協議。

【広報の取組】

- チラシを作成し、コンビニや自動車学校といった若者が立ち寄りやすい場所や、高等学校、社会福祉協議会等に設置。
- 県の広報紙や広報番組等に掲載するほか、フリースクール、児童養護施設等においても事業説明会を実施。



＜取組の成果＞

- のべ173名が事業を利用。
- 事業実利用者（33名）のうち5名が高卒認定試験を受験、うち3名が合格、残りの2名についても一部科目合格。

＜今後の取組＞

- 利用者の交通アクセスに関する課題に対応するため、利用者の求めに応じて訪問やSNS等による学習支援・学習相談を実施するほか、公民館等を借用したサテライト会場を設置することで、大分市以外からの対象者が利用できる実施体制の整備を目指す。
- 高等学校等で事業の周知を行うことで認知度向上を図り、高校中退者に事業に関する情報提供を行う。
- 関係機関との連携体制を強化し、日常的に情報交換できる環境を整備するとともに、高卒認定試験合格後の就職や進学に対応できる仕組み作りを促進。

令和6年度 地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業 大分県の事例（2021年度～）

<実施体制のイメージ図>

